

ます。

躬行館の竣工に引き続き、6号館および旧図書館棟が解体されましたが、その跡地に仮駐輪場を整備し、現駐輪場の場所に2階建ての屋根付き駐輪場を建設します。年末に駐輪場が完成した後は、6号館・図書館棟の跡地には学生の皆さんの憩いの場にするための整備をする予定です。まだ、しばらくご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

昇任のご挨拶



薬学教育系
教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター
准教授 津島 美幸

本年4月1日付で准教授に昇任させていただきました。私は、本学卒業後、天然物化学教室（現在、この教室は残念ながらありません）の助手として、松野隆男先生、小塚睦夫先生のもとで教育、研究に従事いたしました。両先生からは教育者としてのあり方、研究に対するものの見方、考え方を学び、研究者としての基礎を築いていただいたと思います。その後、京都府立医科大学附属病院での研修を経て、本センターに異動後は、臨床情報学（旧 医薬品情報学）の講義および病院薬学実習を担当するとともに、実務実習調整業務を行って参りました。その間、薬学教育は4年制から6年制へと大きく変わり、見学型から参加型実習である医療現場での長期実務実習（病院2.5ヶ月、薬局2.5ヶ月）が必修となり、今年度よりスタートしました。また、学内では前年度より1ヶ月にわたる実務実習事前学習（旧 病院薬学実習）が始まっています。この事前学習では、学生の皆さんが薬剤師として基本的な知識、技能、態度、さらに社会人としてのマナーを身につけ、自信をもって参加型の実務実習に臨めるよう、今後ますます充実した事前学習となるよう努力して参りたいと思います。

さて、初年度の長期実務実習は、500施設を超える病院・薬局の協力を得て実施することになりました。また、本学の方針として「ふるさと実習」を奨励しており、多くの皆さんが地元での実習を予定しています。学生の皆さんには長期実務実習をとおして、薬剤師が「医療チーム」の一員として、他の医療スタッフから信頼されるためには、臨床薬学のより高い知識が必要であること、また、患者をはじめ、他の医療従事者たちとのコミュニケーション能力や医療人としての高い倫理観が要求されることを学んでいただきたいと思います。皆さんの実務実習

が実りある実習となるよう、そして、これらの体験を踏まえて、社会から求められる薬剤師となられるように、微力ながら貢献して参りたいと思います。今後とも皆様方のご指導、ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

新任のご挨拶



基礎科学系
薬学英語分野
教授 フォン フー ロー

平成22年4月1日より新設された基礎科学系薬学英語分野に着任いたしました。私はマレーシアで生まれ育ち、日本国文部省奨学金を授与され、1972年3月に来日しました。翌年3月に東京外国語大学日本語学校を卒業し、同年4月に京都大学薬学部に進学、1983年3月に博士課程（薬理学）を修了後、オーストラリアのジョンカーティン医学研究所で特別研究員として2年間「疼痛および中枢神経の制御機序」についてA. W. Duggan博士の下で研究に励みました。その後、マレーシア国立マラヤ大学医学部薬理講座で講師として着任しましたが、家の諸事情で1987年に家内の実家のある京都に戻り、某薬品研究所に勤務致しました。そこでの4年間で、国際学会などを通じ多くの日本の若手研究者の科学英語に対する基礎学力不足に痛感し、微力ながらこれから若い日本の科学研究者に研究用基礎科学英語を教えたく、退職して教職への道を歩み始めました。1993年、母校で佐藤正道教授による科学英語科目が新設され、そこで非常勤講師として教鞭を取ることになりました。当初は科学英語のための教材が殆どなく、教えたい内容の全てを伝えられなかったことで非常に寂しい気持ちになりました。そのため、2年目に基礎科学英語の教本を執筆し、2006年になった頃には6大学で基礎科学英語および研究用論文作成・投稿および口頭発表を指導し、5冊ほどの科学英語教本も執筆出来ました。

今年度より当校で基礎科学系薬学英語分野が新設されたことを機に、その教授席のご縁を頂くことになりました。これからの薬剤師や研究者にとって科学英語は重要なコミュニケーションの媒体となるので、学生自身が自覚を持ち、勉学に努力を惜しまないことを望みます。今後は、国際化に向けてよい意味の刺激と変化を起さなければなりません。本校卒業者が将来、国際社会で研究者や薬剤師として活躍できるようなグローバルな能力の養成のため、微力ながら尽力させていただき所存でございます。皆様方のご指導とご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

平成22年度科学研究費補助金採択状況

学長 乾 賢一

研究資金には毎年大学から支給される研究費のほか、国から助成される科学研究費（私学助成金を含む）、財団から助成される研究費、企業からの寄付金や受託研究費などがあります。国からの研究費は文部科学省をはじめ厚生労働省、経済産業省などから助成されていますが、いずれも厳しい審査の結果、採択されます。採択率はほぼ20%台といわれています。最も金額の大きいのが文部科学省の「科学研究費補助金」（略して「科研費」と呼んでいます）です。科研費の募集枠は金額によって分類されていて、個人で申請するものや複数の研究者で申請するものがあります。

下表には代表者のみ記載されていて、分担者として他の大学の先生と共同研究を行っている場合は含まれていません。

また、一人の研究者があまり多くの枠に申請できないように制限も設けてあり、3件程度が限度です。

今年は全部で42件申請して、37件[採択率88.1%、総額83,000千円(但し、新規申請採択率33.3%、転入者を含む総額85,080千円)]が採択されました。[特別研究員奨励費は除く。研究活動スタート支援については、申請中]

平成22年度 科学研究費補助金配当一覧表

研究種目	研究代表者	分野名	研究課題	交付予定額 (千円)	新規・継続等
基盤研究(A)	木曾 良明	薬品化学	分子認識に基づく難病治療薬のデザインと医薬化学研究	16,120	継続
基盤研究(B)	小暮 健太郎	薬品物理化学	糖尿病遺伝子治療を目指した非侵襲的な皮下遺伝子送達システムの開発	4,160	継続
基盤研究(B)	高田 寛治	薬物動態学	マイクロニードル経皮ワクチン	10,140	新規
基盤研究(C)	長澤 吉則	健康科学	視覚・固有受容系による各種動的筋力発揮調整能の優先性に関する研究	650	継続
基盤研究(C)	細井 信造	薬学教育研究センター	量子化学計算を用いた誘起CD励起子相互作用による天然物の絶対配置決定法の確立	1,430	継続
基盤研究(C)	秋葉 聡	病態生化学	メタボリックシンドロームの進展要因となるHDLの産生抑制と肝脂肪蓄積の発現機構	1,430	継続
基盤研究(C)	西口 工司	臨床薬学	大腸癌化学療法における経口フッ化ピリミジン系代謝拮抗剤の適正使用に関する研究	1,560	継続
基盤研究(C)	竹内 孝治	薬物治療学	胃・十二指腸重碳酸イオン分泌における局所性調節に関する研究	910	継続
基盤研究(C)	加藤 伸一	薬物治療学	非ステロイド性抗炎症薬による小腸傷害における腸管マクロファージの役割に関する研究	1,560	継続
基盤研究(C)	安井 裕之	代謝分析学	肥満抑制および改善作用を有する亜鉛含有医薬品の開発	1,430	継続
基盤研究(C)	上西 潤一	薬化学	1,3-不斉転写を鍵とする分子内SN2'型環化反応と複素環状天然物の全合成研究	1,430	継続
基盤研究(C)	吉川 雅之	生薬学	エジプト産天然薬物を素材としたメタボリックシンドローム予防物質の探索	1,300	継続
基盤研究(C)	北出 達也	薬品分析学	分子インプリントポリマーを感応素子とした針状微小電位検出型人工免疫センサーの開発	1,040	継続
基盤研究(C)	長澤 一樹	衛生化学	無刺激及びストレス負荷状態でのP2X7受容体を介した神経-アストロサイト機能連関	1,560	継続
基盤研究(C)	齋藤 一樹	薬品化学	EGFレセプターの構造特性にもとづくペプチド阻害薬の設計・探索	1,300	継続
基盤研究(C)	渡辺 徹志	公衆衛生学	糖尿病モデル系による新規内因性化学発がん要因の探索及びそのリスク評価	1,040	継続
基盤研究(C)	小原 幸	臨床薬理学	心疾患におけるミトファジーの病態生理学的意義の検討、および治療への応用	1,170	継続
基盤研究(C)	村上 啓寿	生薬学	活性天然物由来プロローブ分子による新規抗がんおよび抗HIV標的蛋白の解明	1,560	継続
基盤研究(C)	向井 秀仁	薬品化学	タンパク質構造に隠れた生体機能ペプチド「クリプタイド」による生体調節機序の解明	1,170	継続
基盤研究(C)	松田 久司	生薬学	アーユルヴェーダ生薬からPPARの発現制御を指標とした生活習慣病改善物質の探索	1,820	新規
基盤研究(C)	山下 正行	薬品製造学	小員環の歪みエネルギーの解消を基盤とする新規合成反応の開発と天然物合成への展開	1,560	新規
基盤研究(C)	木村 徹	学生実習支援センター	薬剤耐性HIVプロテアーゼに対する高活性阻害剤の設計研究	2,470	新規
基盤研究(C)	矢野 義孝	臨床薬学教育研究センター	経口投与製剤の臨床薬物動態予測のためのファーマコモリクス手法の構築	1,300	新規
基盤研究(C)	坂根 稔康	薬剤学	亜鉛の吸収と体内動態・吸収型輸送担体ZIPと排泄型輸送担体ZnTとの関係	1,950	新規
基盤研究(C)	山本 昌	薬剤学	生体分解性マイクロニードルを用いたインクレチンの次世代型経皮吸収剤の開発	2,860	新規
挑戦的萌芽研究	橋本 貴美子	薬化学	腹菌類ニセショウロ属の分類法と毒性に関する研究	900	継続
挑戦的萌芽研究	谷口 隆之	病態生理学	骨髄由来細胞の脳障害部位へのホーミング機能を利用した神経保護薬送達法樹立への挑戦	1,500	継続
若手研究(B)	濱 進	薬品物理化学	がん微小環境応答性の細胞内取り込み促進型ナノ粒子の構築および抗腫瘍作用の検討	1,040	継続
若手研究(B)	藤井 正徳	薬理学	ヘアレスマウスを用いたアトピー性痒疹モデルの開発	1,170	継続
若手研究(B)	日高 興士	薬品化学	水素結合架橋水を配置する擬対称型プロテアーゼ阻害剤の設計研究	1,820	継続
若手研究(B)	河井 伸之	薬化学	ルイス酸触媒による直接的アミンのアリル化反応の開発	2,210	新規
若手研究(B)	高田 和幸	病態生理学	ミクログリアのニコチン受容体を標的とした新規アルツハイマー病治療戦略の開発	2,080	新規
若手研究(B)	石原 慶一	病態生化学	ダウン症候群モデルマウスの記憶学習障害における酸化ストレスおよび炎症反応の役割	2,730	新規
若手研究(B)	相馬 洋平	薬品化学	アミロイドβペプチドの病態機構解明と凝集阻害剤の創製	2,340	新規
若手研究(B)	西田 健太郎	衛生化学	味細胞におけるアデノシンの生理的役割の解明	1,170	新規
若手研究(B)	勝見 英正	薬剤学	癌骨転移治療薬ゾレドネートの次世代型経皮吸収剤の創製と治療への応用	1,300	新規
若手研究(B)	土谷 博之	薬品物理化学	肝鉄過剰蓄積を伴うNAFLDモデルマウスの解析とレチノイドによる除鉄効果の検討	2,080	他機関より転入
若手研究(B)	柿澤 多恵子	薬品化学	新規BACE1阻害剤の開発:低分子量化へのアプローチ	1,820	他機関へ転出

躬行館完成！

躬行館の図書館棟3階のラウンジから下を見ると、昨年度まで講義にも使用されていた6号館と図書館とが在った場所はほぼ平地状態になっている。新入生諸君には全く関係のないことではあろうが、この風景に一抹の寂しさを覚える学生諸君もいるであろう。もう少し昔話を語ると、2005年度「学生便覧」のキャンパスマップには、躬行館の敷地上に現在改装中の8号館の一部と大学ホールそしてテニスコートが記載され、また取り壊し予定の建物として2号館、4号館、5号館の名称が載っていた。この5年間で本校地の風景もすっかり変わってしまったのだ。

思い出話はこれくらいでよかろう。下の写真のように青空を背景に満開の桜を従え堂々と立つ躬行館の姿は、本学のこれからの発展を象徴するものであろう。愛学館に続く躬行館の完成により、本学建学の精神である「愛学躬行」の建築物としての具体化は成った。しかしその精神を勉学・研究そして各種の社会活動において具現化することは、学生・職員が今後一体となって取り組まねばならぬ永遠の課題である。



2008年11月に着工した新校舎「躬行館（きゅうこうかん）」が2010年2月28日（日）に無事竣工しました。躬行館は地下1階地上3階建ての図書館棟と地上5階建ての講義棟の2棟で構成され、図書館、14の講義室、16のセミナー室、実習室、6の分野、食堂およびコンビニエンスストアを有しています。

本特集では、躬行館を機能別に焦点を当てて特集していきます。

主な施設 ■ ■ ■

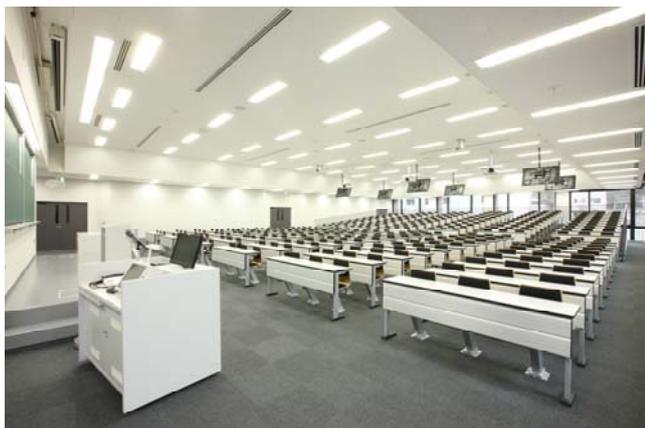
	講義棟	図書館棟
5階	研究室（3分野） 共測室	—
4階	研究室（3分野） 共測室	—
3階	中講義室 小講義室 実習室 セミナー室	大講義室 小講義室 ラウンジ
2階	中講義室 セミナー室	閲覧室 小講義室
1階	食堂 売店(コンビニ) ロビー セミナー室	閲覧室
地階	—	書庫 閲覧室

建物概要 ■ ■ ■

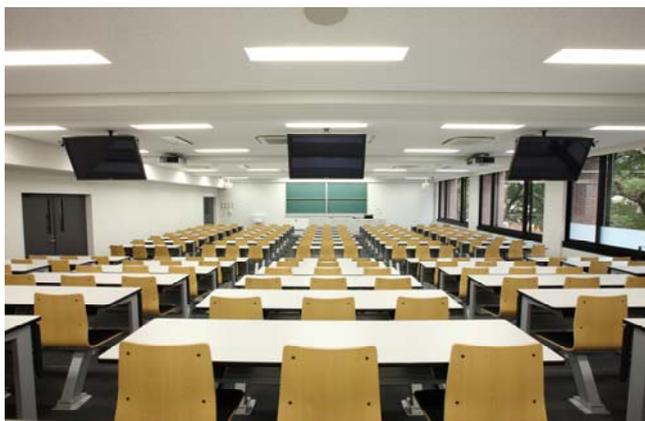
延床面積	11,334.1㎡
建築物の高さ	19.97m
構造	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造・鉄骨鉄筋コンクリート造
階数	地上5階・地下1階・塔屋1階
着工年月日	2008年11月18日
竣工年月日	2010年2月28日
設計・管理	株式会社 日建設計
施工	株式会社 大林組

■講義室、セミナー室

躬行館には1室の大講義室、5室の中講義室、8室の小講義室および16室のセミナー室を備えています。402の席数を有する大講義室は1学年全ての学生を収容できる本学の大講義室であり、講義をはじめ各種ガイダンスなどに活用されます。また、躬行館には多くのセミナー室を有しているのが特長です。セミナー室は1年次の基礎演習や大学院セミナーなど、少人数の授業で活用されます。



402名収容可能な大講義室（T31講義室）



Q21中講義室



Q16セミナー室

■実習室

躬行館には1室の実習室を備えています。実習室は生化学実習（2年次）および薬理学実習（3年次）に活用されます。



Q35実習室

■研究室

4階に薬品分析学分野、薬品物理化学分野および薬剤学分野、5階に病態生化学分野、薬理学分野および臨床腫瘍学分野の研究室を配置しています。また、4階および5階には1室ずつ共測室を設置しています。



病態生化学分野 第1研究室



Q51共測室

■食堂、コンビニエンスストア

総席数384席の食堂とコンビニエンスストアを講義棟の1階に配置しています。食堂では日替りランチ、レディースランチ、ヘルシーランチ、日替り丼の4種類のランチメニューを提供しています。コンビニエンスストアではフードおよびドリンクを中心に提供しています。



食 堂



コンビニエンスストア

■図書館

図書館棟地下1階から2階に新図書館を配置しました。新図書館は約13万冊の蔵書と、303席の図書閲覧席を有する京都薬科大学の知の拠点です。将来的には17万冊を越える図書を収蔵することが可能となっています。

図書館地階には69席の図書閲覧席および集密書庫を配置しています。図書館1階には118席の図書閲覧席、インフォメーション、ブラウジングコーナー、雑誌コーナー、AVコーナーおよび新聞コーナーを配置しています。図書館2階には116席の図書閲覧席、学習図書、辞書・辞典類、就職・資格・国家試験に関する図書および新書・文庫を配置しています。

<開館時間>

平 日 : 9:00 ~ 20:00

土曜日 : 10:00 ~ 17:00



図書館 エントランス



図書館1階 ブラウジングコーナー



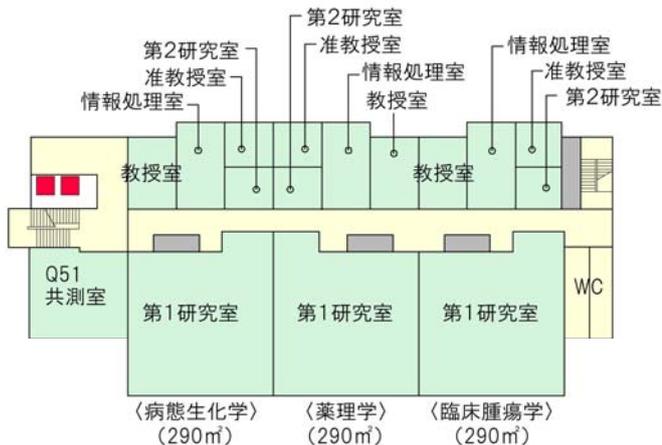
図書館2階 図書閲覧席



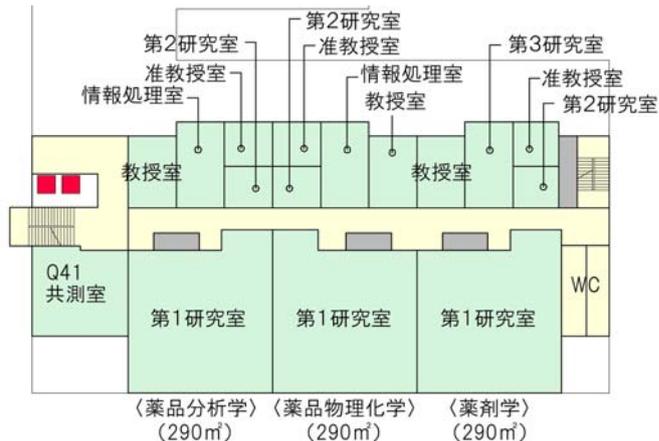
図書館地階 集密書庫

配置図 ■ ■ ■

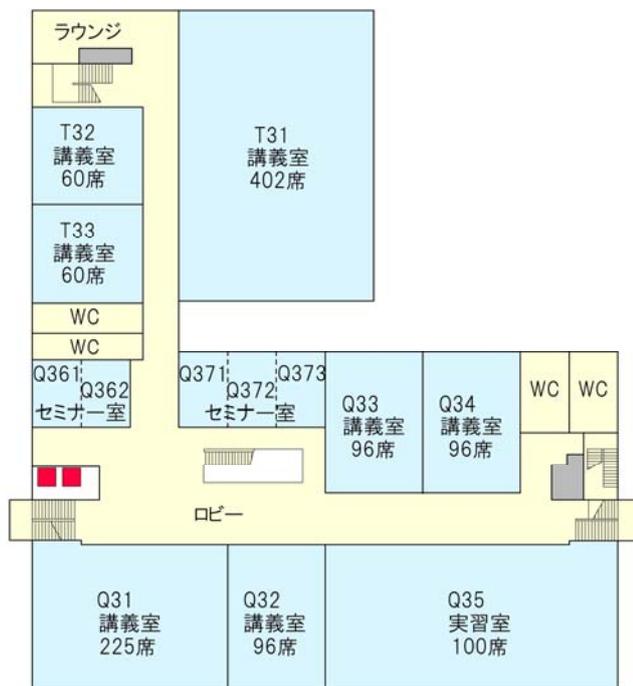
<5階>



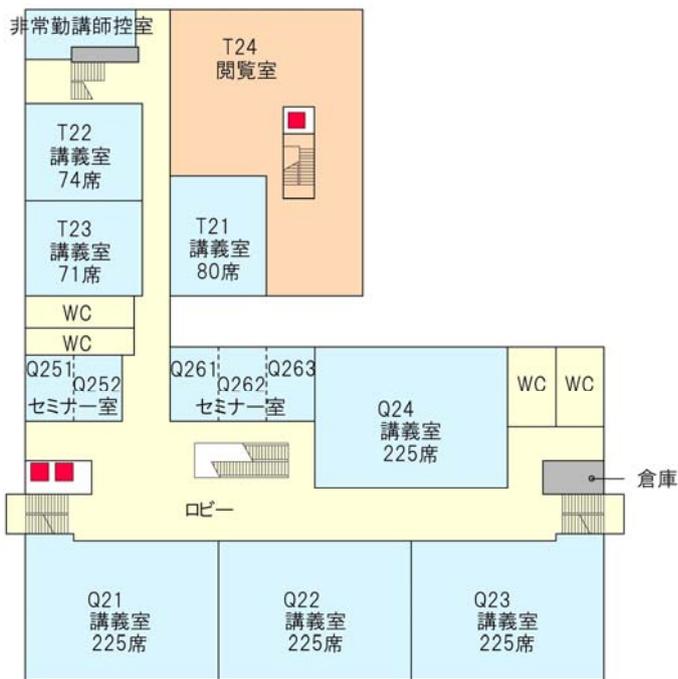
<4階>



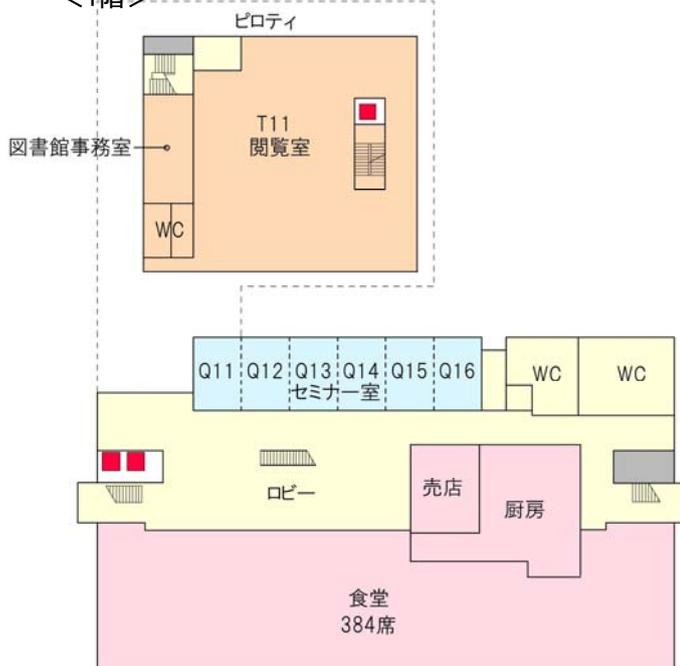
<3階>



<2階>



<1階>



<地階>



2010年度京都薬科大学給付型奨学生

本学は学生の修学支援を強化するため、従来からの貸与型奨学金に加え、本年4月から、新たに給付型奨学金および授業料減免型奨学金制度を創設しました。

給付型奨学金は、優秀な人材の育成、成績向上並びに活力の醸成を図るため、成績優秀者に対して奨学金を給付するものです。今年度の給付型奨学生対象者は、入学成績が特に優秀であった学部新入生11名・大学院新入生5名及び前年度の成績が特に優秀であった2年次から5年次の在学学生41名が選考され奨学金が支給されました。また、表彰式が6月9日に愛学館第1会議室において行われ理事長から表彰状が授与

されました。

また、授業料減免型奨学金は、経済的な事情から修学困難に陥った学生に対する緊急支援として授業料を減免するもので、本年前期対象者として3名が選考されています。

2008年12月から学生の修学支援のために募集を開始した奨学寄附金は、教育後援会会員、卒業生（京薬会会員）、法人役員および職員等の皆様から、今日まで、延べ402件ものご寄附を頂戴しております。

皆様からの多大なるご協力に紙面をお借りして厚く御礼申し上げますとともに、引き続きの資金的なご支援よろしく願いいたします。

学部新入生

1年次 井上 麻美
 1年次 今川 貴裕
 1年次 日下 尚子
 1年次 黒田絵莉子
 1年次 桑原 涉
 1年次 田中 愛美
 1年次 増田 明彦
 1年次 真鍋 和樹
 1年次 山崎由香子
 1年次 山本 美菜
 1年次 和島利可子

大学院新入生

1年次 北尾 和之
 1年次 高山 真一
 1年次 田中 晶子
 1年次 瀨崎 紀行
 1年次 吉川 初

学部在学学生

2年次 池上 倫代	4年次 乾 尚之
2年次 井田安紀子	4年次 植田 裕美
2年次 岡崎 秀太	4年次 大久保 茜
2年次 岡田 真沙	4年次 小城 正大
2年次 岸 一俊	4年次 丹治 里奈
2年次 金高こころ	4年次 中村 友紀
2年次 出口 桜子	4年次 前田 智美
2年次 杜氏裕美子	4年次 森南沙那恵
2年次 中島なぎさ	4年次 森本 遼
2年次 成宮 久美	4年次 安原 亜希
2年次 坊ヶ内協子	5年次 荒田美帆子
3年次 岡田麻友子	5年次 礪本 唯
3年次 岡本真奈美	5年次 小西 敦子
3年次 加藤 夢可	5年次 佐分利 敬
3年次 河野 大貴	5年次 杉本 紗梨
3年次 河原奈津美	5年次 中尾 好絵
3年次 西尾 直子	5年次 浪松 美菜
3年次 藤田 翔	5年次 藤本 重行
3年次 藤原まどか	5年次 堀内 映里
3年次 宮崎 理恵	5年次 家邊美久子
3年次 和下田真美	





学部新入生および在学生



大学院生



表彰状授与の様様

2009年度授業評価集計結果の報告

学生による授業評価は授業の改善を目的とし、学期ごとに実施している。授業アンケートは2002年度から実施しており、2009年度からは、全学生を対象にアンケート調査を実施した。評価対象となる教員は専任教員および非常勤講師としている。

2009年度は、アンケートの設問内容を2008年度までとは変え、各設問を5段階評価とし、総合評価は10段階とした。また学生が授業に取り組む姿勢を問う設問を設け、授業の良い点・改善が必要な点を自由記述で書く欄も設けた。

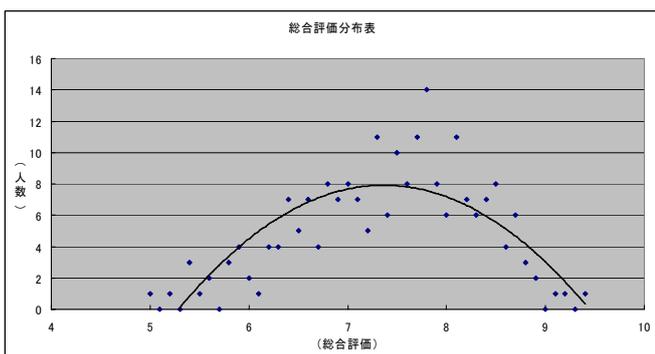
集計結果を受け、教員は授業改善計画として「リフレクション・ペーパー」を作成した。リフレクション・ペーパーは、全教員分を冊子にまとめ、図書館にて公開した。学生からの意見を受けてのフィードバックとして、リフレクション・ペーパーを公開することで、今後の授業改善が積極的に進むことが期待される。

集計結果と解析結果の概要を以下の通り報告する。

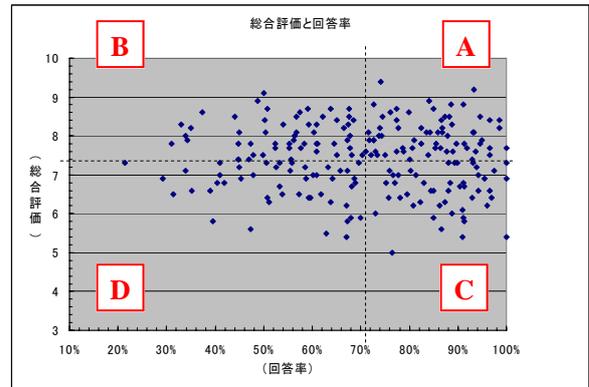
設問項目別授業評価の全体平均

設 問	評価 (5段階)
Q1.話し方が明瞭で聞き取りやすかった。	4.1
Q2.説明がいていねいでわかりやすかった。	4.0
Q3.板書、液晶プロジェクターなどが適切でわかりやすかった。	3.8
Q4.教科書・参考書やプリントなどの教材が適切に使用されていた。	4.0
Q5.授業はシラバスに沿って進められた。	4.0
Q6.重要事項を強調して説明していた。	4.0
Q7.よく準備され、熱意が感じられた。	4.0
Q8.私語や態度の悪い学生に注意するなど、静かに授業が行なわれるように工夫されていた。	3.9
Q9.授業に対する関心を高める工夫がなされていた。	3.8
Q10.この授業内容に興味を持つようになった。	3.8
Q11.教員は学生の質問や意見に対して適切に対応した。	3.9
項目平均	3.9

教員個人別評価の分布は、平均値7.4であった。



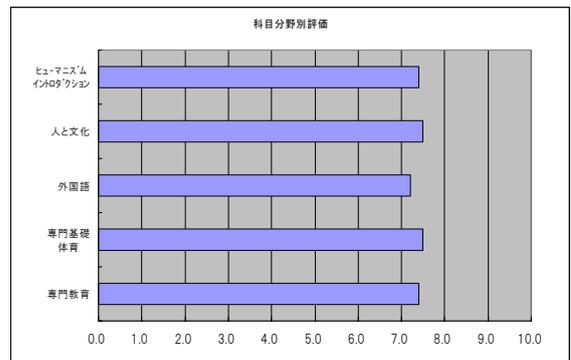
総合評価と回答率の相関を表した分布図は次のとおり。



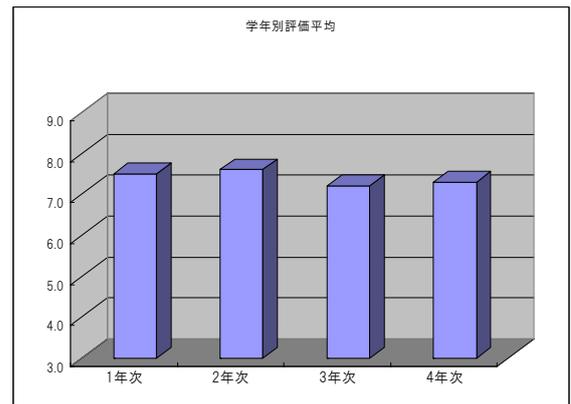
- ・Aの領域は、総合評価が高く、回答率も高い。
- ・Bの領域は、総合評価は高いが、回答率が低い。
- ・Cの領域は、回答率は高いが、総合評価が低い。
- ・Dの領域は、総合評価も回答率も低い。

回答率は、各授業科目の全受講人数のうち、アンケート用紙を提出した人数の割合になっているので、その授業の出席率とみなせる数字である。B、Dの領域にある場合は、出席率を上げるよう改善が求められ、Cの領域にある場合は、より評価が高まるよう改善することが望ましいと思われる。

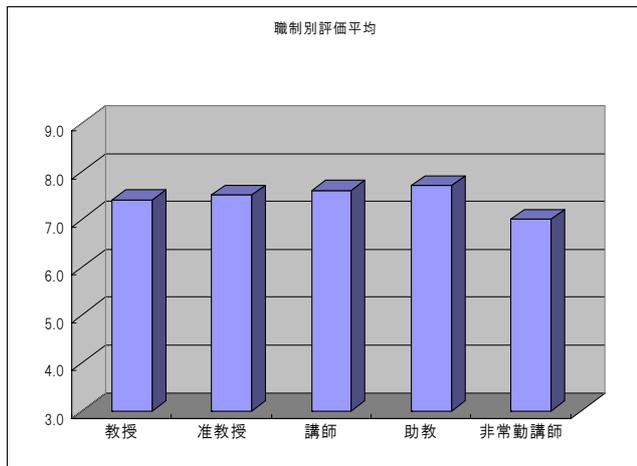
総合評価と授業科目分野区分との関係は、外国語科目が他に比べやや低かった。



学年別平均は、2年次が比較的高い評価となった。



次に職制との関係では、助教の評価が他よりやや高く評価され、教員の年代が若くなるにつれ概ね良い評価が得られた。



最後に、授業アンケートに協力してくれた学生へ御礼申し上げます。また、評価対象となった教員においては、アンケート結果を参考に、更なる授業改善につなげていただければ幸いです。

2010年度KPUnews編集委員は下記の皆さんにご協力をお願いすることとなりました。

<委員長>

秋澤 雅男 (教授)

<委員 (教育職員)>

抱 喜久雄 (教授)

北出 達也 (教授)

高山 明 (教授)

藤原 洋一 (准教授)

長谷井友尋 (助教)

鳥羽 裕恵 (助教)

<委員 (事務職員)>

山下 豊彦 (庶務課長兼

企画・広報課長)

井本富美代 (進路支援課)

<委員 (学生)>

三上 綾 (4年次)

塩崎 望 (3年次)

小田 怜 (2年次)

「卒業生からのメッセージ」

行政における薬剤師



橋 昌利

分子生体制御学分野

平成6年 学部卒業

平成8年 修士課程修了

京都府文化環境部

環境管理課 副主査

大学から公務員としての薬剤師の仕事について書いてみないかと機会をいただきました。実は、KPUnewsに記事を書かせていただくのは2回目となります。

前回は、2005年の4月号。もう5年になるのかと思いつつ、大学のホームページを見てみるとまだその記事が残っていました。記事を見返して思ったことは、まず第一に太ったなあということ。5年の年月の残酷さを感じました。在校生の皆さんには、社会人になっても運動を継続するよう心がけることを強くおすすめします。

第二に、仕事の内容の変化です。当時は薬務課で薬物乱用防止の普及啓発等に従事しておりました。現在は、環境アセスメントや事業所における化学物質管理 (PRTR等) を担当しており、医薬品とはほとんど無縁の仕事をしていますので、懐かしく思いました。

公務員の仕事の特徴の一つとして、人事異動で仕事が変わることがあげられます。事務職の方はそれが顕著である一方、技術職は本来、あまり大きく仕事が変わることはないのですが、薬剤師職はその中でも少し異色で、京都府の場合、私が経験した薬事、環境のほかにも、食品衛生、感染症対策、上下水道等様々な分野で多くの薬剤師が活躍されており、その内容も、現場での苦情対応から、事業者指導、府民への普及・啓発、試験・検査、条例や計画の策定等まで多岐にわたります。

これほど広い分野に薬剤師が配置されているのは、なぜでしょうか。

私は、薬剤師が、大学において、科学的な考え方を幅広く身につけた上で、生命を守るという使命感を持ち、かつコミュニケーション能力を学ぶ、いわば「科学と生命のゼネラリスト」であるが故と考えております。

行政薬剤師は、調剤や臨床といった本来の職能からは離れてしまっていますが、その能力を「科学に基づく行政」の推進に活用することも将来の選択肢の一つとしていかがでしょうか。

最後に、異動について。

私は、現在、薬事行政から離れていますが、現在の環境の仕事に薬務課での経験が役にたっていないかという決してそんなことはありません。様々な分野を知ること、様々な視点から物事を見ることも重要であることを、異動を通じて身をもって感じました。

まさに、経験は財産だと思います。

2010年度 試験関係日程

教務課

《試験日程》

シラバスにも掲載されているように、2010年度の試験日程は【表1】のとおりです。

各学年とも進級・卒業要件を充たすように単位修得してください。最近、試験時間を間違えるケースが多々見受けられます。各自注意して試験に臨んでください。

また、試験合格発表時は、不合格科目確認後、再試験対象科目について、速やかに再試験受験手続をしてください。再試験手続時に発行する「再試験受験許可書・領収書」は、再試験を受験する際に必要です。紛失しないよう大切に保管してください。万が一紛失した場合は、教務課で再発行を受けてください。

当該年度に履修登録した選択科目については、修得するよう努力してください。再試験の受験手続をしなくても構いませんが、再試験手続をしなかった場合は、前年次・前々年次科目再試験で受験することができなくなるうえ、当該年度中は平均点に算入されることになります。

【表1】

年	試験	試験期間	合格発表等	手続等
2010	4年次生 前期試験	7月20日(火)～ 7月27日(火)	8月25日(水)に発表予定	—
	1～3年次生 前期試験	7月22日(木)～ 7月30日(金)		
	2～4年次生 前年次・ 前々年次科目再試験	9月1日(水)～ 9月6日(月)	(6年制2～4年次) 10月中旬に配付する成績通知書に 記載 (4年制4年次) 卒業査定会まで発表しません	4月21日(水)・22日(木)
	1～4年次生 前期科目再試験	9月7日(火)～ 9月13日(月)	(6年制1～4年次) 10月中旬に配付する成績通知書に 記載 (4年制4年次) 卒業査定会まで発表しません	前期試験の合格発表当日と翌日を「再 試験受験願」受付日とします 受付日(予定):8/25(水)・26(木)
	6年制4年次生 薬学共用試験 OSCE本試験	12月18日(土)・19日(日)	発表方法については 掲示等でお知らせします	手続方法については 掲示等でお知らせします
2011	4年次生 後期試験	1月11日(火)～ 1月17日(月)	1月27日(木)に発表予定	—
	1～3年次生 後期試験	1月21日(金)～ 1月31日(月)	2月15日(火)に発表予定	—
	6年制4年次生 薬学共用試験 CBT本試験	1月24日(月)・25日(火) ※いずれか1日を受験	発表方法については 掲示等でお知らせします	手続方法については 掲示等でお知らせします
	4年次生 後期科目再試験 I	2月4日(金)～2月9日(水)	2月17日(木)に発表予定	後期試験の合格発表当日と翌日を「再 試験受験願」受付日とします 受付日(予定):1/27(木)・28(金)

【表1】

年	試験	試験期間	合格発表等	手続等
2011	1～3年次生 後期科目再試験	2月24日(木)～ 3月3日(木)	進級査定会まで発表しません	後期試験の合格発表当日と翌日を「再 試験受験願」受付日とします 受付日(予定):2/15(火)・16(水)
	6年制4年次生 前・後期科目再試験Ⅱ	2月24日(木)～ 3月3日(木)	進級査定会まで発表しません	【前期科目】 受付日(予定):10/27(水)・28(木) 【後期科目】 後期科目再試験の合格発表当日と翌 日を「再試験Ⅱ 受験願」受付日としま す 受付日(予定):2/17(木)・18(金)
	6年制4年次生 薬学共用試験 CBT再試験	3月7日(月)	進級査定会まで発表しません	手続方法については 掲示等でお知らせします
	6年制4年次生 薬学共用試験 OSCE再試験	3月10日(木)		

《成績通知・合格発表》

【表2】の日程で成績通知書を配付します。1～2年次生は学生相談員から3～5年次生は分野主任から受け取ってください。

なお、成績通知書は、必ず配付期間中に受け取るようにしてください。

【表2】

区分	年次	配付日程	保証人(父母)への送付
前期終了時の 成績通知書	全学年 ※以下の内容は除く ・4年制4年次の 前年次科目再試験および 前期科目再試験の結果	10月7日(木)～ 10月14日(木)	10月下旬
後期終了時の 成績通知書	4年制4年次	2月23日(水)～ (卒業査定会後配付します)	—
	6年制1～5年次	3月24日(木)～ (進級査定会後配付します)	4月中旬～下旬

2011年度 学部入学試験概要

2011年度の学部入学試験は、下記のとおり実施します。

受験生や高校生向「大学案内」「データブック」の資料を入試課に用意しておりますので、お近くの受験生、高校生の方々にご案内下さい。

1. 入学定員・募集人員・入学試験日程

学部	学科	入学定員
薬学部	薬学科	360名

	特別選抜 推薦入学		一般選抜		
	指定校制	一般公募制	一般A方式 (センター前期)	一般B方式 (一般入試)	一般C方式 (センター後期)
募集人員	65名	80名	30名	180名	5名
出願期間	2010年10月25日(月) ～ 2010年11月8日(月) 必着		2011年1月5日(水) ～ 2011年1月14日(金) 当日消印有効	2011年1月5日(水) ～ 2011年1月26日(水) 当日消印有効	2011年2月23日(水) ～ 2011年3月8日(火) 当日消印有効
試験日	2010年11月15日(月)	2010年11月20日(土)	2011年1月15日(土) 2011年1月16日(日) 個別試験はなし	2011年2月3日(木)	2011年1月15日(土) 2011年1月16日(日) 個別試験はなし
合格発表日	2010年11月30日(火)		2011年2月12日(土)	2011年2月11日(祝・金)	2011年3月15日(火)

2. 検査項目等

推薦入学(指定校制)
面接および調査書を基に総合的に判定します。

推薦入学(一般公募制)	配点
適性検査 I: 英語(英語I・英語II・リーディング) II: 化学(化学I)	100 100
面接	40
調査書(国語と数学の評定平均値の合計×2)	20
ただし、一定基準に達しない科目があれば、不合格になることがあります。	

区分 教科	一般A方式(センター前期)	配点
数 学	数学I・数学A、数学II・数学B	200
外国語	英語(リスニングの成績は利用しない)	200
国 語	国語(近代以降の文章のみ利用する)	100
理 科	化学I(必須)、 物理I、生物Iから1科目(選択)*	200

* 物理Iと生物Iの2科目を受験した場合はどちらか高得点の科目を合否判定に使用します。

区分 教科	一般B方式(一般入試)	配点
数 学	数学I、数学II、数学A、数学B(数列、ベクトル)	200
外国語	英語(英語I、英語II、リーディング、ライティング)	200
理 科	化学I、化学II(「生活と物質」あるいは「生命と物質」を出題する場合はともに出題し、どちらかを選択させる)	200

区分 教科	一般C方式(センター後期)	配点
数 学	数学I・数学A、数学II・数学B	200
外国語	英語(リスニングの成績は利用しない)	200
理 科	化学I	200

2011年度大学院薬科学専攻博士前期課程入学選考の概要

	一般入試	推薦入試	社会人入試	備考
募集人員	5名			
	若干名	若干名	若干名	
募集分野	・薬科学専攻 19分野			
出願資格	<ul style="list-style-type: none"> ・本学卒業生(本学卒業見込生を含む) ・他大学卒業生(他大学卒業見込生を含む) ・本学が大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者*1 	<ul style="list-style-type: none"> ・本学卒業見込生 ・学業成績、人物ともに優れている者 ・所属分野を専願する者 	大学卒業後、社会人として1年以上の社会的経験を有する者(出願時において)	*1: 文部科学省の大学院入学基準を満たした専修学校専門課程の修了者又は、高等専門学校の専攻科を修了した者について、薬科学研究に必要な科目を履修した者を含む
出願書類 (通常の書類に追加して出願時に提出する書類)	志願理由書 成績証明書(本学卒業生及び本学卒業見込生を除く)	研究報告書 2010年8月18日(水) ～ 2010年8月20日(金)	志願理由書 成績証明書 実務実績書	
関係 日 程	出願期間	2010年7月16日(金) ～ 2010年7月23日(金)	2010年6月18日(金) ～ 2010年6月25日(金)	2010年7月16日(金) ～ 2010年7月23日(金)
	試験	2010年8月25日(水)		
	合格発表	2010年8月31日(火) 午後予定		
	入学手続 期限	2010年9月15日(水) < 入学金納付期限 > 2011年3月25日(金) < 授業料前期納付期限・入学手続書類提出期限 >		
試 験 科 目	外国語 (英語)	4問題から2問題を選択解答 40点(20点×2)	—————	—————
	薬学専門	I～V系の全分野*2・19問題(1分野につき1問題)から2問題を選択解答 40点(20点×2問題)	—————	—————
	小論文他	—————	小論文1題	小論文(一般)小論文(専門)の2課題 成績証明書
面接試験	志願理由書を参考に試問	—————	志願理由書・実務実績書を参考に試問	【学識、説明能力、自覚・意欲】

学校法人京都薬科大学平成21年度決算は、公認会計士、法人監事の監査を経て、5月21日開催の理事会で審議の結果承認され、同日評議員会に報告されました。

当年度に実施した主な学舎整備事業では、薬学6年制教育充実のための学舎として整備を進めてきた躬行館が2月末に竣工しました。躬行館は地上5階建ての講義棟と地下1階地上3階の図書館棟の2棟から構成されており、講義棟は講義室、実習室、セミナー室、研究室および学生食堂が、図書館棟は6年制の学生数に見合った規模の閲覧室と書庫が完成しました。この完成に伴い、学習環境とアメニティの充実とともに1年次生から6年次生がすべて本校地で学ぶことができるようになります。

また、環境対策の一環として躬行館の工事と並行して行っていました、本校地の実験排水処理棟も2月に竣工しました。この処理棟には、実験排水を処理するプラントが設置され、本校地での実験排水をすべて処理することができます。さらに、環境対策としては、愛学館および躬行館に電力使用量モニタリング装置を設置し、省電力とCO₂排出量の削減に取り組みました。

その他の主な事業としましては、奨学金制度の充実を図るため、第3号基本金に8億円を組入れ、現行の貸与型奨学金に加えて新たに給付型奨学金及び授業料減免型奨学金制度を新設しました。給付型・授業料減免型奨学金は、平成22年度から運用を開始します。

更に、若手研究者の研究活動を積極的に支援することを目的として、1999年に運用を休止していた科学振興基金を見直し、平成22年度から研究助成を再開することになりました。助成内容は、1件当たりの助成額は年額200万円以内で助成期間は3年以内として、単年度当たりの助成総額は700万円以内としています。

平成21年度決算の概要は次のとおりです。

資金収支計算書総括表（表1）

学生納付金収入は、入学者数が定員360名に対し406名となったこともあって予算額を上回り3,205百万円になりました。手数料収入は、入学志願者数が前年より69名減（3%）の2,352名となったことを主因に83百万円と予算を下回りました。寄附金収入は、49百万円と予算額を上回りました。奨学金制度充実のための寄附募集を行ったことから、特別寄附は予算額を11百万円上回りましたが、研究助成を目的とした一般寄附金が低調に終わりました。補助金収入は、一般補助や特別補助の経常費補助金を中心に391百万円と、予算額を大きく下回りました。資産運用収入は、110百万円で予算額を上回りました。これは、10年物の国債運用をしたことなどで運用利回

りが少しアップしたことによるものです。事業収入は、ほぼ予算どおりの59百万円となりました。

一方、資金支出では、人件費は、退職した教育職員の補充が遅れたこともあり、1,528百万円と予算額を大幅に下回りました。教育研究経費は、補助事業の規模縮小や研究費の使途を研究用機器に振替執行したことおよび繰り越したことから、予算額を下回り、853百万円となりました。管理経費支出は、経費節減等により予算内に収まりました。施設関係支出では、躬行館の建設、同外溝工事、実験排水処理棟、グラウンド防音壁の設置などで、2,939百万円となりました。設備関係支出では、躬行館の視聴覚機器、机、椅子などの備品、躬行館学食備品等の整備で485百万円と予算額を上回りました。資産運用支出は7,824百万円で、国債の満期償還金および運用収入、国債の購入のほか、奨学金に800百万円を積み増しています。

以上により、次年度繰越支払資金は、3,178百万円と予算を上回りました。

消費収支計算書総括表（表2）

帰属収入は、学生生徒等納付金、雑収入等が予算を上回りましたが、補助金収入などが減少してほぼ予算どおり4,006百万円となりました。また、基本金の組入れは、当年度の施設設備関係支出は3,425百万円でしたが、第2号基本金から2,900百万円の振替を行ったこと、大学ホール、8号館の一部、6号館および図書館棟を合わせて824百万円の除去があったこと等から第1号基本金は611百万円の取崩しとなりました。第2号基本金には運用収入の23百万円を、第3号基本金には奨学金へ811百万円を組入れ、計835百万円の基本金組入れとなりました。この結果、消費収入の部合計は、3,170百万円となりました。

一方、支出においては、人件費、教育研究経費、管理経費の減により予算を260百万円下回り、消費支出の部合計は3,187百万円となりました。この結果、当年度消費収支差額は17百万円の支出超過になりましたが、前年度からの消費収入超過額421百万円および基本金取崩しの611百万円があったため、翌年度に繰越す消費収支差額は1,016百万円の収入超過となっています。

また、当年度の消費収支決算においては、経営判断の指標となる帰属収支差額（帰属収入合計－消費支出合計）が818百万円となり、帰属収支差額比率は、20.4%となりました。

貸借対照表（表3）

有形固定資産は、躬行館建設に伴い前年比2,799百万円増の14,438百万円になりました。その他の固定資産は、第3号基本金引当資産へ800百万円の組入、減価償却引当資産へ500百万円の積み増しを行いました。躬行館建設費に充当するため第2号基本金引当資産を2,900百万円取り崩したため前年比1,506百万

円減少し9,750百万円となりました。また、流動資産は、施設関係支出の大半は第2号基本金の取崩しにより処理しましたが、上記特別会計へ計1,300百万円の積み増しを行ったため、現預金が432百万円減少し、前年比514百万円減の3,309百万円となりました。その結果、資産の部合計は27,498百万円となり、778百万円の増加となっています。

負債のうち、固定負債988百万円は全額退職給与引当金です。流動負債831百万円は、未払金、前受金、預り金を計上しています。この結果、負債の部合計は1,820百万円となっています。

基本金の部は、第2号基本金には運用収入23百万円を組入れましたが、躬行館建設資金として2,900百万円を第1号基本金へ振替えたため、差引2,876百万円減の1,330百万円となりました。第3号基本金には奨学金制度充実を図るため800百万円と運用収入等計11百万円をそれぞれ組入れています。その結果、基本金の部合計は24,661百万円となり、前年比223百万円の増加となっています。

消費収支差額の部は、1,016百万円の黒字となりました。

表1 資金収支計算書（総括表）

平成21年4月1日～平成22年3月31日（単位：千円）

収入の部				支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異	科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,144,200	3,205,588	△ 61,388	人件費支出	1,680,000	1,528,756	151,243
手数料収入	87,600	83,959	3,640	教育研究経費支出	966,500	853,210	113,289
寄付金収入	43,000	49,259	△ 6,259	管理経費支出	200,700	195,287	5,412
補助金収入	517,400	391,288	126,111	施設関係支出	3,095,000	2,939,525	155,474
資産運用収入	99,700	110,455	△ 10,755	設備関係支出	400,000	485,691	△ 85,691
資産売却収入	3,992,000	3,991,970	30	資産運用支出	6,910,100	7,824,129	△ 914,029
事業収入	60,200	59,534	665	その他の支出	492,900	561,499	△ 68,599
雑収入	80,000	101,500	△ 21,500	予備費	20,000		20,000
前受金収入	645,800	673,876	△ 28,076	資金支出調整勘定	△ 102,000	△ 180,631	78,631,130
その他の収入	5,005,500	5,940,209	△ 934,709	次年度繰越支払資金	2,795,700	3,178,089	△ 382,389
資金収入調整勘定	△ 802,900	△ 832,508	29,608				
前年度繰越支払資金	3,586,400	3,610,426	△ 24,026				
収入の部合計	16,458,900	17,385,559	△ 926,659	支出の部合計	16,458,900	17,385,559	△ 926,659

表2 消費収支計算書（総括表）

平成21年4月1日～平成22年3月31日（単位：千円）

収入の部				支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異	科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	3,144,200	3,205,588	△ 61,388	人件費	1,646,300	1,512,010	134,289
手数料	87,600	83,959	3,640	教育研究経費	1,506,500	1,414,738	91,761
寄付金	53,000	53,700	△ 700	管理経費	265,700	260,828	4,871
補助金	517,400	391,288	126,111	資産処分差額	10,000	367	9,362
資産運用収入	99,700	110,455	△ 10,755	(予備費)	20,000		20,000
事業収入	60,200	59,534	665	消費支出の部合計	3,448,500	3,187,945	260,554
雑収入	80,000	101,500	△ 21,500				
				当年度消費収支差額	235,900	17,139	
				前年度繰越消費収支差額	420,400	421,864	
帰属収入合計	4,042,100	4,006,026	36,073	基本金取崩額	352,700	611,891	
基本金組入額合計	△ 829,500	△ 835,221	5,721	翌年度繰越消費収支差額	537,200	1,016,615	
消費収入の部合計	3,212,600	3,170,805	41,794				

表3 貸借対照表（総括表）

平成22年3月31日現在（単位：千円）

資産の部				負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減	科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	24,189,050	22,896,597	1,292,453	固定負債	988,657	1,005,402	△ 16,745
有形固定資産	14,438,420	11,639,153	2,799,267	流動負債	831,682	854,670	△ 22,987
その他の固定資産	9,750,630	11,257,444	△ 1,506,813	負債の部合計	1,820,340	1,860,073	△ 39,732
流動資産	3,309,084	3,823,190	△ 514,105	基本金の部			
現金預金	3,178,089	3,610,426	△ 432,336	科 目	本年度末	前年度末	増 減
その他の流動資産	130,994	212,763	△ 81,769	第1号基本金	21,153,114	18,865,005	2,288,108
				第2号基本金	1,330,450	4,207,096	△ 2,876,645
				第3号基本金	1,949,614	1,137,747	811,866
				第4号基本金	228,000	228,000	0
				基本金の部合計	24,661,179	24,437,850	223,329
				消費収支差額の部			
				科 目	本年度末	前年度末	増 減
				翌年度繰越消費収入超過額	1,016,615	421,864	594,751
				翌年度繰越消費支出超過額			
				消費収支差額の部合計	1,016,615	421,864	594,751
資産の部合計	27,498,135	26,719,787	778,348	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	27,498,135	26,719,787	778,348

(注) 減価償却の累計額の合計額 7,142,393千円

表1、表2、表3とも単位未満切捨て

米国カリフォルニア州におけるFD視察報告

企画・広報課 主査 森 洋介

1. はじめに

本学が大学コンソーシアム京都加盟18大学と推進している、文部科学省戦略的大学連携推進事業「地域内大学連携によるFDの包括研究と共通プログラム開発・組織的運用システムの確立」の活動の一環として、2010年2月7日（日）から2010年2月14日（日）にかけて米国カリフォルニア州におけるFDの視察を行いました。私以外のメンバーは、京都精華大学および京都FD開発推進センターから2名、京都学園大学、池坊短期大学および大学コンソーシアム京都から各1名が参加し、計8名で視察を行いました。

FD(Faculty Development)とは、教員の授業内容や教育方法などの改善・向上を目的とした組織的な取り組みの総称です。本学では、学生の皆さんに協力いただいている授業評価アンケートや教授法向上のための研修会を通して教員のFDを図っています。FD先進国と言われる米国のFD活動を視察し、その取組を参考に京都地区の大学において更に質の高いFD活動を展開することが今回の視察の目的です。

今回の視察では以下のスケジュールで総合大学5大学、美術系大学2大学を視察しました。

<視察スケジュール>

- 2月 8日 カリフォルニア州立大学ロングビーチ校
- 2月 9日 カリフォルニア州立大学フラトン校
- 2月10日 California Institute of the Arts
- 2月11日 The San Francisco Art Institute
カリフォルニア大学バークレー校
Berkeley City College
- 2月12日 サンフランシスコ州立大学



視察メンバーとサンフランシスコ州立大学にて
(筆者左端)

米国カリフォルニア州の大学は州の高等教育マスタープランにより3つの設置形態に分けられます。詳細は表1の通りです。

表1 カリフォルニア州の高等教育マスタープラン

	エリート型	マス型	ユニバーサル型
機関類型 (segments) 公立	University of California (UC) 10校	California State University and Colleges (CSU) 21校	California Community Colleges (CCC) 108校
使命・役割	州の中心的研究機関 学部教育 大学院(博士課程)	実践的分野及び教員養成が主たる目的 学部教育 大学院(修士課程)	高校卒業生及び成人一般を対象に職業教育、学部前半の教育を提供 4年制大学進学課程 職業技術課程 教養・生涯学習課程
教育・研究	原則として博士号取得課程はUCに。 医学・歯学・獣医学・法学等の職業専門教育もUCで提供。	修士号取得課程までの大学院教育。 博士号はUCとの共同プログラムでのみ。 研究活動は教育と両立する限り可能。基本的には教育活動関連。	職業及び学部前半の2年間の教育。 移民等を対象とする第二言語としての英語教育等も提供。
入学資格	高校成績上位12.5%	高校成績上位33.3%	高校卒、18才以上 無選抜入学
機関類型 (segments) 私立	Stanford, Caltec, SUC	約140校	Junior Colleges (JU) 68校(うち営利44校)

(出典：文部科学省ホームページ)

今回視察した総合大学を分類すると以下の通りです。本報告では、カリフォルニア州の総合大学におけるFDの取組について、以下の分類別に報告します。

<今回訪問した総合大学の分類>

- ①エリート型 (UCリーグー研究系大学)
カリフォルニア大学バークレー校(UC Berkeley)
- ②マス型 (CSUリーグー教育系大学)
カリフォルニア州立大学フラトン校(CSUF)
カリフォルニア州立大学ロングビーチ校(CSULB)
サンフランシスコ州立大学(SFAI)
- ③ユニバーサル型 (編入・職業系大学)
バークレーシティカレッジ(BCC)

2. エリート型大学におけるFD

カリフォルニア大学バークレー校(以下、UC Berkeley)を訪問して感じたことは、UCというカリフォルニア州の中心的研究機関の使命と役割を果たす特性から、教育活動より研究活動に注力しているということです。UC Berkeleyにおける人材戦略について説明していただいたSheldon Zedeck教授(Vice Provost for Academic Affairs & Faculty Welfare)は、教員に求められる能力を①リサーチ能力、②ティーチング能力、③サービス(大学への貢献)と明確に序列化していました。Zedeck教授の説明で非常に印象的であったのが、「教員にとってティーチング能力は重要である。しかし、我々の大学では

リサーチ能力が最も重要であり、どんなにティーチング能力が高くてもしリサーチ能力が低い教員は大学に残ることができない。逆にティーチング能力が低い教員でも非常に高いリサーチ能力を有していれば大学に残れる可能性がある」という話です。UC Berkeleyに在席する講師以上の教員約2,400名のFD活動を支えるOffice of Educational Developmentに2名のスタッフしか配置されていないことから、UC Berkeleyのようなエリート型大学では大学主体のFDが積極的に行われていないことが見て取ることができました。



Zedeck教授

3. マス型大学におけるFD

カリフォルニア州立大学フラトン校、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校およびサンフランシスコ州立大学がマス型大学に分類されます。エリート型の大学が研究にウェイトを置いているのに対し、マス型の大学では教育にウェイトを置いています。3大学全てのFDセンタースタッフが、教員に求められる能力は①ティーチング能力、②リサーチ能力、③サービス（大学への貢献）と序列化したことから、マス型大学の教員にとっていかにティーチング能力が重要かわかります。そのため、各大学は学内にFD支援のためのセンターを設置し、教員のティーチング能力を伸ばすための支援を積極的に行っています。

ただし、FDセンターの支援対象には若干の偏りが見られました。米国の教員はTenure Faculty（終身雇用教員）とTenure Track Faculty（終身雇用権を有しない教員。比較的若手の教員が多い）に分けられます。Tenure Track Facultyは一定の期間（最長6年間のケースが多い）に教育、研究および大学への貢献実績を残し、その実績が認められればTenure Facultyとして採用されます。実績が認められない場合は別の職場を探さなくてはなりません。Tenure Track Facultyにかかるプレッシャーは相当なものでしょう。そのためマス型大学におけるFD支援は、特にTenure Track Facultyの教育能力向上およびキャリア支援プログラムに力を入れていました。大学の将来を担う存在である若手のTenure Track Facultyの能力を伸ばし、大学の発展に長期間にわたり寄与

してもらおうという人事戦略を垣間見ることができました。

一方で、彼らの抱える課題も見えてきました。それは、Tenure FacultyのFDに対する意識の低さです。米国の大学ではFDプログラムへの参加は教員の自主性に任せられることが大半です。終身雇用権を有する教員は、FDに対する意識が低くなりプログラムの参加率が下がるそうです。これまではインセンティブを与えて参加を促していたそうですが、景気悪化による予算カットでインセンティブを与えることもできなくなっています。予算が限られる中、Tenure FacultyのFDに対する意識をいかに高めるか、彼らは非常に頭を悩ませていました。

4. ユニバーサル型大学におけるFD

今回の視察大学のうち、バークレーシティーカレッジ（以下、BCC）がユニバーサル型大学に分類されます。2年制のユニバーサル型大学は4年制大学編入および職業技術修得を目指し入学する学生がほとんどです。また、学費が安く基本的に学力試験を実施しないため、多様な学生（移民、低学力、低所得者層家庭、留学生、社会人等）を抱えています。そのため、教員には多様な学生に対する教育能力が求められます。その代わりに、BCCでは研究能力は一切求められません。

上記のような背景があるため、BCCではFDとして何をすべきか、何に取り組むべきかという視点ではなく、「学生にとって必要なサポートやプログラムは何か」という視点から常に改善に取り組んでおり、この活動が結果的にFDを包括し、学生の利益に繋がっていると感じました。

5. おわりに

カリフォルニア州の大学を視察して感じたことは、各大学が自らに課せられた使命・役割を理解し、その使命・役割を達成するためにFDに取り組んでいるということでした。紙面の都合上、プログラムの詳細は割愛させていただきましたが、彼らが実施しているFDプログラムは日本でもよく見かける、ごく一般的なプログラムです。しかし、プログラム設計が大学の理念・目的の実現に直結しており、特に教育に重点を置く大学では経営戦略・人事戦略とFDの連動が上手く図られていました。

本学は、薬学の教育及び研究を推進し国民の健康を支える医療人を育成することを教育理念に掲げています。この理念実現のために、教員がどのような能力を身につけるべきか。もう一度原点に立ち返り、本学のFDプログラムを構築し、理念に沿った人材を育成していくことが重要であるということに気付かされた視察となりました。

受賞

北村佳久准教授 日本薬学会学術振興賞受賞

病態生理学分野の北村佳久准教授が、平成22年度日本薬学会学術振興賞（第4B部門：衛生化学・薬理学）を受賞し、日本薬学会 第130年会（岡山）において松木則夫 会頭より授与（3月27日）および受賞講演（3月28日）が行われました。受賞対象となった研究は



「ドパミンニューロン保護および再生に関する分子薬理学的研究」で、約15年間の京都薬科大学において行われたパーキンソン病の根治治療を目指した研究成果が認められました。この総説は、平成22年秋の「薬学雑誌」に掲載予定です。

日本消化管学会優秀演題賞受賞

2010年2月19～20日、福岡にて開催された第6回日本消化管学会で、薬物治療学分野 小山真史さん（博士前期課程2年）らによる研究「十二指腸アルカリ分泌におけるムスカリン受容体の関与」が、日本消化管学会優秀演題賞を受賞しました。ムスカリン受容体M1、M3およびM4受容体が重炭酸イオン分泌に関与していると解明したことが評価されました。



2010年米国消化器病学会 優秀ポスター賞受賞

2010年5月1～5日、米国ニューオーリンズで開催された上記の学会において、薬物治療学分野の発表演題2題が、Poster of Distinction（優秀ポスター賞）を受賞しました。

★受賞者：小島慎二（M2）

★演題：Roles of Cyclooxygenase/Prostaglandin E2, Nitric Oxide Synthase/Nitric Oxide, and Enterobacteria in Pathogenesis of Ischemic Enteritis in Rats (by Shinji Kojima, Yuka Nakamori, Tohru Kotani and Koji Takeuchi)

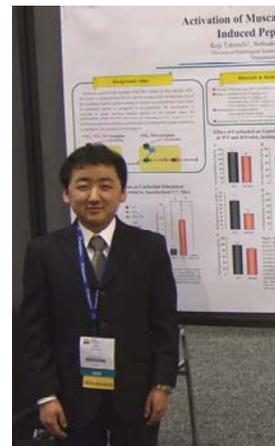
★受賞者：天ヶ瀬紀久子（助教）

★演題：Endogenous Prostaglandin E2 Accelerates Healing of Indomethacin-Induced Small Intestinal Lesions Through Up-Regulation of VEGF via Activation of EP4 Receptors (by Kikuko Amagase, Azusa Kojo, Akimu Ochi and Koji Takeuchi)



国際学会に参加して 薬物治療学分野 土岸 広治(5年次生)

アメリカのニューオーリンズで行われた米国消化器病学会に、竹内教授をはじめ研究室の先輩達と一緒に参加してきました。私はポスター発表をさせて頂きました。これまで国内ですら発表の経験はなく、いきなり海外での英語での質疑応答なので、当日までとても不安でした。日常会話も十分にできない状態でしたが、少しでも相手の話していることを理解しようと必死に聞きました。聞き返すと、ゆっくりとわかりやすい英語で話してくれたので要点は把握できましたが、今度はもちろんその回答を英語でしなくてはいけなく、それが一番難しかったです。実際に英語での会話になると緊張して、簡単な単語や分かっているはずの実験内容の単語もすぐに出てこないことに気づきました。そんな中でポスターの絵を使っただけの説明や身振りでの伝え方が大切な手段でした。英語が話せるということはこの世界では最低限必要なことなのだと思感しました。うまく話せなくても、世界の著名な先生たちに実際に会えたことは本当にいい経験だと思いました。今回の学会では普段できない多くの経験をすることができとても勉強になりました。これからの研究室での活動に生かしたいと思います。



発表ポスターの前で

米国消化器病学会—ミシシッピ—川の畔で

薬物治療学分野 河原 良治(M2)、倉田 直人(M2)

2010年5月1日より5日間にわたり行われた米国消化器病学会 (American Gastrological Association : AGA) に参加するため、竹内教授、佐藤客員教授、加藤准教授、天ヶ瀬助教とともにアメリカ、ニューオリンズへ向かいました。飛行機を三度乗り継ぎ、世界三大河川の1つであるミシシッピ川を有するニューオリンズに到着しました。ニューオリンズは、ジャズの発祥地として名高い一方で、2005年8月にはハリケーン・カトリーナが上陸し被害が大きかった地域でもあります。

この学会は、世界で一番大きい消化器病学会であり、先輩方から日本の国内学会とは規模がまるで違うと伺っていたので、期待に胸を膨らませる反面、英語での発表という不安な気持ちもありました。また、エントリーした演題全てが受理されるわけではなく、審査にパスしなければなりません。従って、中途半端な発表は許されません。私たちの演題はポスター発表として選ばれていましたが、2時間の間、ポスター前に沢山の研究者が集まり、熱く激しい討論がなされるとのことで、英語での発表内容の説明や質問対策など事前に練習しこの学会に挑みました。竹内教授、林ポストドクター、3月に修士を修了した熊野さんは、口頭で発表されました。先生方は、何度も英語で発表されているためかなり慣れているように感じましたが、私たちは初めて国外の学会に参加したため、正確に質問を聞き取り、伝えたいことを正確に伝えることができるのか、ポスターの前に立つまで、とても不安でいっぱいでした。実際にポスターの前に立ち、質問をいただく度に聞きなおすこともありましたが、理解しやすい表現やジェスチャーも交えて話していただいたので、苦戦しながらもディスカッションすることができました。発表演題の一つは、「Role of Calcium-Sensing Receptor (CaSR) on Gastric Acid Secretion in Isolated Mouse Stomachs (胃酸分泌に対するCaSRの役割)」であり、この演題に対しては、消化管におけるCaSRの研究で第一人者のYale大学のGeibel教授から質問を頂きました。このように私の研究内容に興味を持って頂いていることがとても嬉しく、研究に対する意欲の向上にもつながりました。

日頃、論文等で拝見する著名な先生方の発表も多く、その発表内容を理解することに専念しました。しかし、すべての内容を把握できず、実験結果や結論のスライドを必死にメモすることで精一杯でした。本学会の発表内容の中には、論文にはまだ発表されていない知見も多く、最新的话题を学ぶこともできました。また、英語圏以外の研究者は英語を流暢に話しているのに比べ、私たちは単語をつなぎ合わせたような簡単な会話しかできず、私たちの語学

力の低さを改めて実感し、悔しい思いもしました。

学会最終日は午後4時頃にほぼ全ての発表が終わったので、日が沈むまでの間、ニューオリンズの代表的な観光スポットであるフレンチクォーターの街並みを散策しました。まず私達は京都駅にも出店しているカフェデュモンドの第1号店に足を運びました。当時の古風なオープンテラス形式の店舗を現在も保っており、看板メニューであるベニエと呼ばれる粉砂糖をかけた角型のドーナツとコーヒーを注文し、オープンテラスの開放的な雰囲気を楽しみました。次に立ち寄ったのはセントルイス大聖堂ですが、現存するアメリカ最古の大聖堂で、フレンチクォーターの代表的な観光スポットで大胆かつ繊細な部分があり、見るものを魅了する建造物でした。私達が訪れたときは天気も良く、鳥が水浴びしており、とても雰囲気があり、歴史ある建造物に感銘を受けました。日が沈んでからは、多くのバー、ライブハウスが軒を連ねるバーボンストリートで夕食を楽しみ、充実した5日間を振り返りました。

初めて海外で発表し、第一線で活躍されている世界各国の著名な方々から直にアドバイスを頂くというまたとない機会を得ることができ、貴重な経験をさせて頂きました。自身の研究内容を英語で討論するという経験を通じ、有意義に学会に参加できたと感じました。また、語学力の大切さを学び、今後より一層の努力が必要だと痛感しました。

末筆ながら、今回のような学会発表の機会を与えて下さいました竹内教授、また学会の参加に御配慮頂いた理事長、学長をはじめ、大学関係者の方々に深く感謝致します。



討論中の筆者ら (左: 倉田、右: 河原)



学会場前にて

開館日程

2010年 7月							2010年 8月							2010年 9月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25
25	26	27	28	29	30	31	29	30	31					26	27	28	29	30		

臨時に休館する事がありますので、図書館掲示板で確認して下さい。

	休館
	9:00-20:00
	9:00-17:00
	10:00-17:00
	休館=館内整備

新しい図書館 サービスを開始しました

3月のひと月を使い、新しい図書館への引っ越しと新館オープン準備を進めてきました。この期間は学生さんや先生をはじめ皆様方には大変ご不便をおかけしました。おかげさまで無事4月1日からの開館にこぎつけることができました。

いかがでしょうか。黒を基調とした床、書棚、机と椅子、それに全体的に抑え気味の照明と手元を照らすデスクのライトなどなど、館内デザインのあちらこちらに設計者のこだわりのようなものが感じられます。大学はサービスを提供する側からの視点でいろいろな要望を出し、例えば、机や椅子などは当初の設計に一部変更を加えてもらっています。そしてお気づきでしょうか？右上から左斜め下に光が当たるデスクのライト。これもその一つで、左手で字

を書く方のために各階に4席ずつ用意してあります。そして9月には図書館システムを更新します。これにともない情報検索の端末機が地階と2階に設置され、学生のみなさんにはもっと便利な図書館になることと思います。また、閲覧座席の数は3倍の約300席になりましたので、使い勝手も一層向上しているはずです。自習のための図書館ではなく、図書館資料をおおいに活用してあたらしいことを知る学習のための図書館として使い込んでください。1階のブラウジングコーナーには、新着図書、一般雑誌、教育後援会から寄贈を受けた図書や文芸書などを並べていますので、授業の合間にぶらり立ち寄り気分転換を図るのもよろしいかと思います。試験前の利用だけではなく、日常的に気楽に立ち寄ってください。

お知らせ

人 事

任 命

副学長 教授 竹内 孝治
副学長 教授 後藤 直正

(以上 任期：2010. 4. 1～2012. 3. 31)

教育研究総合センター所長事務取扱 学長 乾 賢一
(2010. 4. 1付)

薬学教育研究センター長事務取扱 学長 乾 賢一
情報処理教育研究センター長 教授 深田 守
学生実習支援センター長 教授 北出 達也

(以上 任期：2010. 4. 1～2012. 3. 31)

動物研究センター長 准教授 奈邊 健
(任期：2010. 5. 1～2011. 3. 31)

昇 任

2010. 4. 1付

事務局会計課	係 長	土田 花美
事務局教務課	係 長	佐原 和美
事務局入試課	係 長	阪 幸子
事務局進路支援課	係 長	井本富美代

2010. 7. 1付

医療薬科学系臨床薬学分野 講 師 辻本 雅之

採 用

薬学教育系教育研究総合センター臨床薬学教育研究センター
特命教授 金澤 治男
特命教授 佐藤 隆司
特命教授 西野 武志
特命教授 野出 學
特命教授 藤本 貞毅

(以上 契約期間：2010. 4. 1～2011. 3. 31)

2010. 4. 1付

創薬科学系薬品製造学分野 助 手 岩崎 宏樹

2010. 7. 1付

病態薬科学系臨床腫瘍学分野 助教 飯居 宏美
配置換

2010. 4. 1付

薬学教育系教育研究総合センター薬学教育研究センター
助教 開 章宏 (生命薬科学系分子生体制御分野)
薬学教育系教育研究総合センター学生実習支援センター
助教 小関 稔 (創薬科学系薬品製造学分野)
事務局庶務課長 (企画・広報課長兼務)
山下 豊彦 (事務局入試課長)
事務局入試課長 増田 重治 (事務局庶務課長)

退 職

2010. 6. 30付

事務局入試課 主事 吉村 律子

名誉教授の称号授与

2010. 4. 1 付

西野 武志
野出 學

2010年度「京薬祭」の開催に向けて

2010年10月29日(金)から31日(日)まで開催させていただきます京薬祭の成功に向けて、すでに実行委員会が活動を開始しています。

現在、幹部を中心に、実行委員スタッフが知恵を出し、より有意義な学園祭にするために検討を重ねております。学校行事としての京薬祭が盛況となりますよう、皆様の温かいご支援をお願い致します。

【2010年度実行委員 幹部】

実行委員長 3年次生 大石 利一(バレーボール部)
副実行委員長 3年次生 米澤 研二(硬式野球部)
文化部長 2年次生 柴田潤一郎(軽音楽部)
書記長 3年次生 近藤 瑠美(剣道部)
会計部長 3年次生 浅野 理子(バレーボール部)
庶務部長 2年次生 福田 智哉(バドミントン部)
《実行委員長より一言》

意欲的な1年次生が入学され、早4ヶ月がたちました。10月末に開催する京薬祭に向けて、実行委員もそれぞれ意欲的に取り組んでいます。今年度の学祭のテーマは「夢にときめけ祭りにきらめけ～まつりが好きならバカになれ～」です。学生の方はもちろん、一般の方にも楽しんでいただける企画、内容を検討中です。

当日は数多くの催し物を用意してお待ちしていますので是非、足をお運びくださいますよう、実行委員一同心よりお待ちしております。

教育後援会からのお知らせ

4年次生を対象に、医療者のためのくすりの本「治療薬マニュアル」を4月に寄贈しました。学生の皆さん

んには「病院・薬局へ行く前に」の授業に早速活用することができ、大変喜ばれています。

また、学生自治会の要望によりパンフレットスタンドを愛学館入り口に設置いたしました。

種々のパンフレットが見やすく配置され、大変好評です。

10月には例年通り教育後援会総会を開催いたします。詳細につきましては別途ご連絡させていただきますので、多数のご参加をお待ちしております。

京薬会だより

○平成22年度代議員総会

5月22日(土)午後より愛学ホールで開催されました。21年度活動結果報告と22年度の活動計画が審査され、京薬会の活動方針が決定されました。また、前日21日には京薬会選出評議員と京薬会本部常任幹事との懇談会、22日午前中には代議員総会に先立ち支部長会が行われました。

○平成22年度卒後教育講座

今年で35年目となる京薬会主催の卒後教育講座が、躬行館大講義室にて400名の受講者を対象に5月9日、6月6日、7月11日、9月5日の計4日間に12コマの講座で開講されます(卒後教育A)。また、同講座をインターネット配信する講座(卒後教育B)を秋季に開講します。詳細は、京薬会ホームページ(<http://www.kpu-aa.com/>)・薬業紙等で案内をします。

○京薬会ホームページ

平成21年にリニューアルした京薬会ホームページ(<http://www.kpu-aa.com/>)は、アクセス数も21年2月5日開設以来、21,132件・ID/PW所有会員数:197となりました。今後も内容の充実を図り、内容更新に努めて参ります。会員および本学学生の皆様には、ログインページにある登録フォームに必要事項を記入し送信して、ID・パスワードの配信を受けた後、アクセスしてください。また、会員のページ中にクラブのページ、研究室のページなどの設置が可能ですのでご利用下さい。

○京薬グッズ

学生や卒業生より、京薬キャンパスのグッズ要望が多く寄せられ、これにお応えするため京薬会で、「京薬グッズ」を作成しました。現在は、ボールペン、キャリングケース、クリアホルダー、マウスパッド、ポストイット、マグカップ、ラッピングペーパーと7品目ですが、近々スポーツタオルを予定しております。本学の購買部(ポピー)で頒布しておりますので、是非一度手にとってご覧下さい。

○分子模型

学部新入生に入学祝として小型分子モデルを配布しました。もし配布漏れがありましたら、京薬会事務室(愛学館7F)までお申し出下さい。

京都薬科大学奨学寄附金ご芳名録

下記の方々から寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

- * 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。
- * 敬称略、ご芳名のみ掲載しております。

2010年に寄附をお寄せいただいた方々

〈卒業生・同期会等（卒業年次順）〉

久保 巖(昭14)	小田 雅岐(昭32)	本岡美智子(昭37)	村岡 孝子(昭43)	東浦 純子(昭55)
石黒 道彦(昭19)	片岡 勲(昭32)	池崎 宗克(昭38)	渡辺 温(昭43)	平野 隆(昭55)
長谷川匡仁(昭19)	鎌田 潤子(昭32)	山下 慶子(昭38)	青山 昭策(昭44)	神川 邦久(昭56)
久保田桃三(昭24)	木村賀代子(昭32)	吉富堅一郎(昭38)	池阪喜代子(昭44)	竹田奈保美(昭56)
小財 勲(昭24)	清水 政信(昭32)	六車 昭美(昭39)	林 恵子(昭44)	吉村 聡子(昭56)
佐山 福繁(昭24)	瀧野 雅子(昭32)	加納 亜子(昭40)	稲垣 美幸(昭45)	有田 昌純(昭58)
田代 益子(昭27)	広畑美代子(昭32)	神田橋紘子(昭40)	辻 孝範(昭45)	市川 克己(昭59)
岩城 宗吉(昭28)	森脇 茂子(昭32)	野口 隆志(昭40)	廣安 勉(昭45)	猪奥真理子(昭60)
宇本 芳樹(昭28)	若松 道雄(昭32)	野口 紘子(昭40)	安藤 謙治(昭46)	抱 隆史(昭61)
豊田 博文(昭28)	渡部 一榮(昭32)	久山 弥栄(昭40)	米満 弘夫(昭47)	山口 昌史(昭61)
牧 敬文(昭28)	柴田 浩子(昭33)	前田トシ子(昭40)	今井久美子(昭48)	福山由希子(昭62)
安藤 寛治(昭29)	木村 恵一(昭34)	斎藤 安正(昭41)	辻 美稚子(昭48)	藤原 篤子(昭63)
後藤 和之(昭29)	森田 康子(昭34)	杉浦 純子(昭41)	佐藤 嘉純(昭49)	江藤 裕子(平04)
滝野 哲(昭29)	柳田紀美枝(昭34)	七海 朗(昭41)	安武 廣(昭49)	深津 紀子(平06)
三浦 一子(昭29)	湯浅 忠男(昭34)	七海 禮子(昭41)	中嶋 澄江(昭50)	山下 和紀(平08)
岡本 秀雄(昭31)	梅谷 俊子(昭36)	藤田 成孝(昭41)	猪奥 耕一(昭52)	屋木 祐亮(平21)
千歳 嘉子(昭31)	小林 早苗(昭36)	谷口 睦子(昭42)	北尾 善信(昭52)	京薬五五会(昭32)
得居 怜子(昭31)	林 智香子(昭36)	平越 孝平(昭42)	島 知子(昭52)	塩野義製薬株式会社
山本 珠子(昭31)	平原 靖子(昭36)	山口 博行(昭42)	三上 正(昭52)	京薬会 有志一同
池田 正義(昭32)	吉光 博恵(昭36)	久米 和子(昭43)	森 一二美(昭52)	微生会2010
浮田 和也(昭32)	西尾 英明(昭37)	古本 靖弘(昭43)	服部 恵子(昭53)	
大西 恭輔(昭32)	林 晴雄(昭37)	古本 良子(昭43)	新井 理恵(昭55)	

〈企業・団体・一般〉

阿倍 幸子

愛知株式会社京都営業所

近電商事株式会社

匿名希望 1社

〈法人役員・評議員・職員（五十音順）〉

蘆田 康子(理事)	北村 享子(助教)	佐原 和美(係長)	宮秋 昭(理事)
乾 賢一(学長)	久米 光(評議員)	白木太一郎(評議員)	宮本 茂敏(理事)
入江 一充(監事)	小里 芳顕(課長)	高山 明(教授)	宮本 孝(課長)
上西 潤一(教授)	後藤 直正(教授)	武田 禮二(理事)	村山猪一郎(監事)
小関 稔(助教)	近藤伸子(課長補佐)	田村 正昭(理事長)	森田 和子(評議員)
加納 良章(主事)	坂口由美子(主事)	土田 花美(係長)	山口 泰秀(評議員)
菊本 均(評議員)	坂根 稔康(准教授)	長澤 一樹(教授)	山下 豊彦(課長)
北出 達也(教授)	佐々木善文(主幹)	浜崎 博(教授)	吉川 雅之(教授)

〈元教授（五十音順）〉

金澤 治男

佐藤 隆司

舟崎 紀昭

(2010年6月20日現在)